

ヨハネの手紙第一第二第三

第一ヨハネの著者は不明ですが

第二と第三ヨハネは長老と呼ばれる人物によって書かれました

この3つの手紙の言語や文章のスタイルは同じでヨハネの福音書とも同じなので

これらはみなイエスが愛された弟子が著者だろうと考えられています

というわけで著者は12弟子の一人のゼベダイの子ヨハネか

あるいはイエスの初期からの弟子で長老ヨハネとして知られる

別のヨハネかもしれません

どちらだとしてもこの著者は高齢で

おそらくエペソの周辺の家の教会を監督していた人物です

ヨハネの福音書やこれらの手紙を読むと

この教会はほとんどユダヤ人の信徒から成っていて

最近危機に直面したためにヨハネがこれらの手紙を書いたようです

一部の人々が教会から離れてイエスのことを

イスラエルのメシアとも神の子とも認めなくなったと著者は述べています

さらに彼らは信仰を保って教会に残っている人々に敵意を向けていました

第二と第三ヨハネではこの対立についてはっきり書いています

第二ヨハネは特定の家の教会に対し

イエスを否定する者たちがいることについて警告しています

ヨハネは彼らを惑わす人と呼び

彼らが家の教会に承認や支援を求めてやってきても

受け入れてはならないと命じました

第三ヨハネはこういった家の教会の一つのメンバーでガイオという人に宛てたもので

著者はもうじきそちらに到着する本物の働き人を受け入れてほしいと頼んでいます

これを書かなければならなかったのは

この家の教会の指導者であるディオテレペスが敵対的で

長老ヨハネが送り出す人は誰も受け入れなかったからでした

このようにこれらの手紙からヨハネが直面していた

教会における緊張関係や対立を垣間見ることができます

第一ヨハネはそういった問題に対処するために書かれた手紙でした

メシアなるイエスを今でも信じ

真理に留まっている者たちと神は共にいてくださると著者は請け合っています

これらのことから第一ヨハネの特徴がわかります

これは手紙というよりむしろ教会に送られた詩のような説教です

ヨハネは自分は新しいことを教えているのではなく

第一ヨハネに書かれている主要な教えやことばは

ヨハネの福音書に記されているイエスの教えからきているのだと言っています

ですからヨハネがこの手紙を書いた目的は

信徒たちが信じると言った真理を思い出させ

それに留まるように説得することなのです

ヨハネの説教は詩としても非常に優れています

彼は直線的論理的に考えを述べるのではなく

拡充法という古代のよく知られた修辞法を使っています

ヨハネは命真理愛という核となるテーマだけを伝えようとしていて

これらのテーマを繰り返し述べながら

少しずつ視点や強調点を変えています

また誇張した表現や光と闇愛と憎しみ

善と悪の様な分かりやすいイメージを使い明確な対比を作ります
しかしこのシンプルさに関わらず
第一ヨハネは非常に深いメッセージを伝えているのです
第一ヨハネにははっきりした導入部分と結論があり
その間にテーマが繰り返される説教がはさまっています
ここにはこれといった構成はありませんが
大きな2つのセクションがあり
それぞれあなたがたへのメッセージという導入句で区切られています
そしてこの2つのセクションは
神はまず光であることと
神は愛であるというテーマを中心にして
内容のすべてはこの2つのテーマから流れ出し
巡り巡ってここに帰結していくのです
導入部分はヨハネの福音書と非常に似通っていて
創世記1章と箴言8章に響き合うものがあります
ヨハネははじめに命のことばが神と共にあったと言っています
ヨハネにとって神という言葉は父なる神と
世界に命をもたらすために来られた子なる神の両方を指しています
その子なる神を見て聞いて触ったイエスの目撃者であった
ヨハネと使徒たちをヨハネは私たちと呼んでいます
その私たちから次の世代のクリスチャンである
あなたがたに伝えるべきメッセージがあると言います
使徒たちが他の人々に命の言葉を分かち合うとき
その人々は使徒たちを通して
父なる神と子なる神との交わりの中に招きいられるのです
ここでいう交わりとはギリシャ語のコイノニアで
分かち合うとか加わるという意味です
使徒を通してイエスのメッセージを聞く人は
そのメッセージによってイエスご自身との真の関係に入れられ
また神の愛と命に加えられるのです
このことが一つ目のメインセクションで語られています
あなたがたに送るメッセージはこれです
神は光です
使徒たちからのメッセージとは
イエスにおいて現わされた神は光であるということです
だからもしイエスを通して神の命に加わりたいなら
光の中を歩み続けなければなりません
印象的な描写ですが具体的にはどうすればいいのでしょうか
それはイエスの教えを守ることだとヨハネは言います
それは非常に難しいことですが
失敗した時にはイエスの贖いの死があなたの罪を覆い
もう一度立ち上がってイエスの教えに従うようにと促してくれるのです
ではイエスの教えとは何でしょう
ヨハネはイエスの古くも新しくもある教えで
最後の晩餐で弟子に語られたことを思い出させます
イエスが愛されたように互いを愛し合いなさい
これが光の中を歩むことなのです

さて神の光がイエスを通して輝いているなら
この世の闇は消え去り神の子どもたちは
この世を支配する罪や悪や死に対して
今この瞬間すでに勝利を手に行っているのです
だからヨハネは教会に世を愛してはいけません
それは過ぎ去っていくものだと呼びかけます
彼は特に高慢と性的な堕落について語っています
この問題がこの教会における対立に関係していたようです
それからヨハネは教会を離れ
もはやイエスをメシアと認めない人々について警告しています
彼らのことを反メシアや惑わす者たちと呼びながら
一方でイエスの真理に留まっている人々は神の子どもだと
ヨハネは確信をもって語ります
彼らは父なる神に愛され正しいことをし互いに愛し合うことを通して
自分たちが神の家族であることを示しているのです
一方惑わす者たちは怒りと対立と分裂を生みだしています
そして2つめのセクションで語られる
使徒たちからのメッセージはこれです
神は愛です
だから神の子どもたちは互いに愛し合い
憎しみを遠ざけなければなりません
創世記4章のカインのようであってははいけません
彼は憎しみによって弟を殺したとヨハネは言います
しかしクリスチャンにとって
愛とは他者のために自分の命を捧げることです
それはイエスがしたことであり
神の子どもたちがその愛に信頼する時
それによって変えられるのです
ヨハネは惑わす者たちを
今度は偽預言者と呼んでもう一度警告しています
彼らはイエスがメシアであることを否定しながら
神の預言者を騙っていました
しかしヨハネはどんな霊か確かめなさいと言っています
もし神のために預言すると言いながら
十字架につけられた神の子イエスに焦点を当てない者がいるなら
それは神の預言者ではないのです
真の神の子どもたちは十字架にかかってよみがえられたイエスを
自分たちの人生の中心に据えるのです
なぜならそこに神の御心が現れているからです
十字架は神が自分を与える愛の存在であると示していて
その愛によってイエスの信徒たちは互いを愛し合うのです
そしてこの神の愛に出会う時
恐れも不安も永遠に取り去られるのです
それがヨハネが世に勝ったと言った意味に繋がります
あなたのどんな欠点や過ちにもかかわらず
神があなただけを熱烈に愛しているということがわかると
それがあなたの人生の土台になります

この愛は
十字架につけられたイエスに信頼することによってもたらされ
その信頼は聖霊によって生まれたイエスについての神の言葉と
イエスの使徒たちのメッセージを信じることによって生まれます
神の愛に捕らえられた者には永遠の命が与えられます
それは神ご自身の臨在と命と愛に満ちた世界で
今から永遠に続くのです
それからヨハネの説教はクライマックスにさしかかります
神の子が来て
真実な方を知る力を私たちに与えてくださったことを知っています
私たちは真実の方の内に神の子メシアなるイエスの内にいるのです
この方こそ真実の神であり永遠のいのちです
これを聞いて混乱する方もいるかもしれません
真実である方とは誰真の命をくださる方は誰
イエスなのか神なのか
それに対するヨハネの答えはどちらもです
イエスと分離した神はあり得ないし
ヨハネやほかの使徒たちがイエスに出会った時
どんな過ちにもかかわらず
彼らなしでは生きられないというほどに深く愛した神に出会ったのです
この神は驚くべき方で私たちの思いをはるかに超えます
そのためヨハネは最後に偶像から自分を守りなさい
つまり自分のイメージできる範囲に
神を閉じ込めようとする誘惑を退けなさいと呼びかけています
イエスを知ることは命を与え自分より他者を愛する神を知ることです
これこそが唯一の真の神であるとヨハネは言います
これがヨハネの手紙第一第二第三です

【要約】

第一ヨハネの著者については不明で、第二と第三ヨハネは長老と呼ばれる人物が書きました。これらの手紙の言語や文章のスタイルは一致し、イエスの愛された弟子が著者だと考えられます。著者はゼベダイの子ヨハネまたは長老ヨハネの可能性があり、高齢でエペソ周辺の家教会を監督していたとされます。ヨハネの手紙はユダヤ人信徒から成る教会での対立や危機に対処するために書かれました。対立について第二と第三ヨハネが具体的に述べ、第一ヨハネは信仰と真理を強調し、教会に送られた詩のような説教です。ヨハネはイエスの教えと命真理愛を強調し、神の光と愛を伝えます。十字架を通じて神の愛に触れ、信仰と真理を守ることが重要であり、偽預言者に注意し、神への信頼と愛を強調します。ヨハネの説教は非常に深いメッセージを伝え、神の愛と永遠の命を強調しています。